

アベノマスクがやっとポストに入っていた。時遅し、すでにマスクの値は下がり、どこでも売っているぞ。稚拙な場当たり政策の結末は、支持率をさらなる下落へ。

6月10日のゼミは、萩原伸次郎『世界経済危機と資本論』第6章「世界経済危機と『資本論』の論理」・第7章「アメリカの経済危機対策」を竹内さんの報告で行いました。サブプライムは、低所得者層による住宅ローン、その証券化であり、世界中に販売されたが、その危機は元利支払の滞りで、まず2007年に欧州で起り、2008年3月のベアーズの取付けで始まった。それまでのユーロダラー市場の形成、国際資本取引自由化により、金融を通じた経済的覇権が確立された。しかしながら、その危機の立ち直りも金融政策により、早かった。ブッシュ政権はこの危機に対して当初は楽観的であったが、危機の深化により政策を転換し、政府救済・公的資金投入へと舵を切った。続くオバマ政権では景気刺激策を行い就任2年間に最高額に達した。最後に、変動相場制・国家財政規模増大・世界経済が歴史的条件であるが、アメリカ経済は長期的には衰退の運命にある。報告者からの論点は、「危機」と「恐慌」の言葉の問題であり、この本では金融危機と使うが、恐慌をどのように捉えるのか。米国の覇権は揺らいでいるのかどうか。討論では、サブプライム・ローンだが、その前に日本では住専問題があり、本来産業への融資から住宅・土地融資へと変化し、米国よりも10年早かった。しかし、サブプライム・ローンは金融工学を使ってローンを証券化するという手が込んだ方法であったため、影響は世界に広がった。景気循環のサイクルは何によるのか、固定資本更新の10年サイクル化、あるいは技術革新・サイエンスが関わっているのか。この本の表題に、『資本論』と入っていて、米国・世界の経済危機に対して『資本論』の論理を出してくるが、逆に、『資本論』の世界と現代は論理が違う、と述べているようだ。出席は、小野さん、高島さん、川口さん、松村さん、大村さん、竹内さんと高田の7名でした。

* 6月10日のゼミで萩原本を終わりました。7月・9月は個人報告の予定、10月から新しいテキストの候補の推薦をお願いいたします。

***** ゼミ日程 *****

- 6月24日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻3章 信用制度下の通流手段 報告大村さん
- 7月8日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
個人報告：L. ランダル・レイ：MMT理論について 報告竹内さん
- 7月22日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻3章 通貨主義・銀行立法 報告者未定
- 9月9日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
個人報告：テーマ「1930年代の世界」 報告小野さん
- その後 9/9, 9/23, 10/14, 10/28, 11/11, 11/25, 12/9, 12/23, 1/13, 1/27

◇第三学科事務局/高田好章：ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

<http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso